滋賀・北大萱遺跡

1 所在地　滋賀県草津市北大萱町
2 調査期間　一九八三年（昭58）五月～八月、一二月
3 発掘機関　草津市教育委員会
4 調査担当者　藤居　朗
5 遺跡の種類　集落跡
6 遺跡の年代　古墳時代後期、平安時代後期～鎌倉時代
7 遺跡及び木簡出土遺構の概要

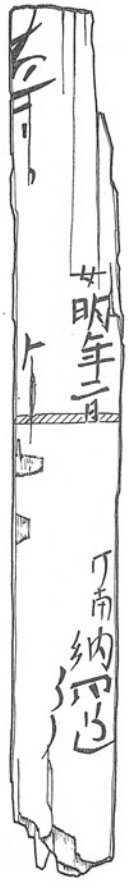
北大萱遺跡は、草津市街地より北西へ約三kmの東から西へ緩慢な傾斜を持つ標高約八六mの水田地帯に位置する。一九八三年に当遺跡周辺において、団体営ほ場整備事業が計画されたため、草津市教育委員会が事前発掘調査を実施した。この付近は、以前より古墳時代を中心とする時期の遺物の散布が認められており、当該時期の遺構の存在が予想されていたが、調査の結果、古墳時代の遺構は少なく、それに重複して、平安時代後期～鎌倉時代の遺構が多く検出された。後者の遺構としては、柱穴、井戸跡および、井戸からくみ上げた水を溜めたと考えられる長楕円形の土壙等があり、木簡は、そのうちの長楕円形土壙より出土した。

（京都東北部）

8 木簡の釈文・内容

(1)「　□□聖女明年二月　□河南納所□
　　右□　了」

(232)×(28)×2　081

「聖」は、赤外線透視により判明した。「可南」については、文字が右端に寄っているため旁（つくり）と考えられる。その次の「納所（なっしょ）」とは、古代末に律令制が崩壊していく過程で、正規の徴税機関に代わり、各地に出現した年貢米等の収納所で、このことから、当木簡は、年貢の納期であった翌年二月に向けての年貢米等に付けられた付札と考えられる。また、「納所」の上の二文字は地名の可能性が強く、近くに穴村（あなむら）という地名があることから、「阿南（あな）」とも考えられる。

（藤居　朗）